

「木場の窓から見えるもの(元外交官の視点)」

弊社理事 石井正文(元駐インドネシア日本国大使)による
気になる海外情報を原則第2、第4木曜日に配信しています。

第71回:ポスト・ジョコウィのインドネシア(6つの今後の論点)

2024年5月9日配信

【ポイント】

■インドネシア大統領選挙の結果は、プラボウォ・ギブランチームの当選で確定。

■今後を占う6つの論点

- ①プラボウォが議会多数派を取れるか⇒多数派形成に成功
- ②闘争民主党(PDIP;最大政党)の行方⇒野党を選択＝ジョコウィとの緊張関係を孕む
- ③ジョコウィ(ギブラン)の影響力の行方⇒ジョコウィの立場は盤石ではなくなりつつある
- ④プラボウォの経済政策の行方⇒自身がやりたいこと(＝財政支出を伴う)が明確⇒首都移転の優先度が下がる可能性
- ⑤主要閣僚はどうなる⇒財務大臣＋インフラ関係主要閣僚が変わる可能性
- ⑥日本との関係⇒インフラを含む従来の協力継続＋格差是正の視点を加味すべき
＋気候変動対策も重要に

【本文】

■2月14日に行われたインドネシア大統領選挙については、3月20日に選挙管理委員会が最終結果を発表し、選挙当日に発表された出口調査に基づく結果と同様に、プラボウォ・ギブランチームの当選が確認された

・最終結果;プラボウォ-58.59%、アニス-25%、ガンジャル16%

■今後の主要日程

- ・8月17日;独立記念式典—ヌサンタラ(新首都)で開催予定(後述の通り、準備はギリギリ間に合いそう)
- ・10月20日;大統領就任式—同様に新首都ヌサンタラで開催予定
- ・その後、新内閣組閣

①第一の論点;プラボウォが議会多数派を取れるかどうか⇒多数派形成に成功

・大統領選挙と同日に行われた議会選挙の結果も3月20日発表されたが、未だ一部からチャレンジを受けており、最終確定していない(6月上旬に確定予定)。その前提で、現状を示せば、次の通り、大統領選でプラボウォの対立候補を支持した政党を含めて与党に回り、与党議席は7割を超える多数派となった。



<議会総議席>; (○数字は議席数順) 580議席

- ・与党;ゴルカル党②; 102議席 プラボウォ支持+第二政党
- ・グリンドラ党; 78議席 プラボウォ出身政党+第三政党
- ・国民信託党(PAN) 44議席 プラボウォ支持
- ・民主党 54議席 プラボウォ支持(ユドヨノ元大統領政党)
- ・民族覚醒党(PKB) 68議席 党首ムハイミンはアニスの副大統領候補
- ・ナスデム党 69議席 アニス支持
- ・福祉正義党(PKS) 53議席 アニス支持
- ・闘争民主党(PDIP)①; 110議席 ガンジャル支持+最大政党

■選挙でプラボウォを支持したゴルカルから民主党までに加えて、その後の連立交渉の結果、アニスを支持した3政党の内、PKBとナスデムが与党入りに大筋合意の模様(インドネシアでは選挙後の合従連衡は通例)
=与党6党415議席=72%)

②第二の論点;闘争民主党(PDIP)=最大政党の行方

- ・ジョコウィ大統領+ギブランの出身政党である最大政党PDIPは野党になった
- * ジョコウィは、PDIPの公式候補であるガンジャルを支持せず、自分の長男であるギブランをプラボウォの副大統領候補に送り込み、プラボウォ支持を明確にした(今後、両者はPDIPを脱党する予定)。
- * 色々な形で政権運営に口を出すPDIP党首メガワティとジョコウィの関係はこれまでも微妙だったが、大統領選への対応は明確な反旗。ガンジャルが敗北するだけでなく、議会議席でもPDIPが大敗すれば、PDIPを乗っ取る(=大統領退位後も影響力を維持し、身分保障を図るベースとして活用)くらいの野望がジョコウィにはあったと思われる。
- * 一方、大統領選でガンジャルは最下位に沈んだが、PDIPは選挙では思ったほど議席を減らさず(128⇒110)、最大政党の座を維持したので、乗っ取りは空振りに。
- ・PDIPは反ジョコウィで団結を保つため、野党を選択
- * PDIP内では路線対立有り
 - メガワティ長女のプアン国会議長は、与党連合入りを希望
 - メガワティ本人と長男プラナンダは政権と距離を置き是々非々の対応を選好
 - ハスト幹事長は、この対立の先鋭化防止のために、ジョコウィを悪者に。
 - 最悪のシナリオ=党分裂=ジョコウィの介入
- ・一方、PDIPはプラボウォへの直接的攻撃は避けており、今後、プラボウォとの連携の可能性も=ジョコウィにとって益々厳しい状況に
- * PDIPはジョコウィ・ギブランの影響力排除
- * プラボウォはジョコウィのくびきから離れ、徳治政策を進めるための支持基盤拡充

③第三の論点;ジョコウィ(ギブラン)の影響力の行方

- ・今回の総選挙の焦点は未だに7割強の支持率を誇る現職ジョコウィ大統領への支持の取り合い、誰が同大統領の政策をより確実に引き継ぐかだった。
- ・一方、選挙後、ジョコウィの立場はそれ程盤石ではなくなりつつある。
 - * 影響力維持+身分保障のためには、政党の基盤が必要だが、うまくいっていない。
 - PDIPとの対立は決定的+PDIPは第一党の座維持=乗っ取りは無理になった
 - プラボウォ支持に回ったゴルカルの乗っ取りも上手くいっていない。
 - 次男を党首としたPSI(インドネシア連隊党)は議席取れず
 - * プラボウォも自分の政策実現優先の方向に舵を切りつつある兆し(下述参照)
 - 首都移転を含むジョコウィ政策継続が不透明に
 - その流れでPDIPとプラボウォ接近=ジョコウィ・ギブラン排除の可能性もある。

④第四の論点;プラボウォの経済政策の行方

■プラボウォが選挙で掲げた政策;「黄金のインドネシア2045に向けて」

【主な経済プログラム】;(ジョコ大統領の政策を継続)

- ・農産業、漁業・水産の底上げによる食料自給率の向上(フードエステート、造船)
- ・無償の給食及び牛乳配布、幼児・妊産婦への栄養支援による国内脆弱層の飢餓の解決
- ・大型プロジェクト(ジャワ北岸における防波堤(Great Sea Wall))
- ・年率7%の経済成長、国家歳入庁設立
- ・ジャワ中心主義脱却としての新首都(IKN)移転
- ・汚職の撲滅
- ・手頃な価格の住宅の提供

【外交・防衛】

- ・「独立かつ能動的」な外交、不干渉外交と善隣外交、非同盟
- ・自国を富ませて国力を強化し、防衛力を強化
- ・国防予算のGDP2%への引き上げを目指す

■プラボウォ自身がやりたいことは明確+選挙公約としてコミットしている

- ・財政支出増の公約(≡人々の生活を良くするバラマキ政策)が多い
- ・歳入不足を補うための国家歳入庁創設=税收増(現在11%の対GDP比をタイ並みの16%に引き上げる)を目標
- ・2045年までに先進国入りのためには、放漫財政も出来ない。

↓

■今後、諸公約の優先順位をどうするのかに注目



■その流れで首都移転の優先度が下がるとの予想が多い

- ・基本的政府施設(大統領府,ヌサンタラ・ホテル,調整大臣府X4,大臣宿舎,VIP空港,基礎インフラ)の建設は急ピッチで進行中
- ・=8月の独立記念式典には何とか間に合う方向
- ・=多くの省庁で6月~9月には公務員が移動(約90万人中1万人程度)
- ・=2024年には48万人程度の予定だった人口は5-6万程度か?
- ・政府機関が集まるゾーンの開発だけでも何とか、という相場観?

■ジョコウィの「下流化」品目を21分野に広げるとの話もあるが、代表であるニッケルさえ上手くいっていない。

- ・国内の採掘・精製は中国がほぼ独占(中国投資の45%はこの関係)
- ・中韓のバッテリー工場はリチウム型で尼のニッケル不使用

■2045年までの先進国入りは最優先事項+ジョコと共通政策

- ・引き続き、外国投資への期待は高い
- ・インフラ整備は引き続き高い需要+優先
- ・人材育成、輸出増等も重要視

■防衛装備品調達活発化に期待

⑤第五の論点:主要閣僚はどうなる?

- ・そりが合わないスリ・ムリヤニ財務大臣は交代(但し、放漫財政は出来ない。)
- * マンディリ銀行人脈の後任(ブディ保健大臣,カルティカ国営企業副大臣),パハラ外務副大臣等)が報じられている。
- ・国防大臣はシャフリ・シムスディン元副大臣(プラボウォ主導)か?
- ・メガワティ人脈(スリ財務相+ルトノ外相,バスキ公共事業相)+ブディ運輸相も交代
- * インフラ関係の主要閣僚(バスキ,ブディ)は交代。後任人事に注目
- ・大番頭役は弟のハシム・ジョヨハディクスモ(ビジネスマン)では?
- * 選挙参謀を務めたエリック・トヒル国営企業大臣、その兄のボイ・トリルの行方?
- ・日本シンパでは、
- * ゴルカルのアイルランガ経済調整相(「投資」が担当に入る可能性),アグス工業大臣は留任
- * PDIP系のアリフィン資源相(元駐日大使),プラモノ内閣官房長官は退任

⑥第六の論点：日本との関係

- ・首都移転は、期待値を調整＋リスク・ヘッジで
 - * 従来以上にゆっくり進む可能性
 - * 現地のパートナー企業と組む方が良い
- ・インフラ協力＋プラボウオの田舎社会課題解決協力をセットで
 - * 農水産業強化＋高付加価値化(含：離島開発)
 - * スタートアップ支援
 - * 自動車輸出ハブ化(含：パティンバン開発＋ブカシ自動車試験場)
 - * 人材育成・交流の拡充
 - * MRTの着実実施(南北延伸＋8月の東西線着工)
 - * ジャカルタ下水道処理事業
- ・気候変動対策への協力
 - * ASEC(アジア・ゼロ・エミッション共同体)MOU24件は有望
 - －アイルランガ経済調整大臣肝いりでもある
 - * ASEC首脳会談の際のジョコウィ案件(地熱・廃棄物発電・泥炭地管理)
- ・ステップ卒業間近＝ODAと民間投資の共存、リスク・ヘッジのためのJICA・JBIC投融資、NEXI、ADB協調等、力を合わせ知恵を出すことが一層重要になる(大使館の門は開いている)。
- ・防衛装備品協力の実現見通しも改善

以上

りそな総合研究所 理事 石井正文